

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1072
施設名	松島おひさま保育園
施設所在地	江戸川区松島2-30-17
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触（小麦粉）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

日常の保育の中に、様々な感触遊びを取り入れている。子どもたちの粘土遊びに興味をもって取り組み楽しむ姿から小麦粉粘土を取り入れたところ、粘土とは違う感触に喜んでいたため

2. 活動スケジュール

室内遊びの際、粘土遊びを取り入れる

⇒感触遊びの一環として普段、食べている小麦粉が粘土に代わる様子を見て触れてみる

⇒小麦の粘土として遊び、小麦粉が食べ物に変わることを体験する

⇒小麦粉に水や砂糖などを混ぜて捏ねる、型抜きしてクッキーを完成させる

⇒出来上がったクッキーを焼いて実際に食べてみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

小麦粉粘土…小麦粉・ボウル・水

クッキー作り…小麦粉・砂糖・バター・卵・ボウル・ホットプレート・トレイ・ラップ・抜き型

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

小麦粉に水を入れてかき混ぜると粉と水が混ざり、少しずつ塊になっていく様子を見る。その後こねて行くと粘土になっていく様子に興味を示して、匂い嗅いでみたり、触ってみたりしていた。

クッキー作りでは、粘土遊びの延長線上で、型抜きしたりこねたりしていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

小麦粉に実際に触れてみると「さらさらしている」と言葉で表現していた。小麦粉が固まりになっていく様子を見て「ねばねば」「伸びてる」など変化していくのを楽しんでいた。クッキー作りでは普段行ってる粘土遊びと変わらず、クッキーの素材を上して型抜きをしていた。甘い匂いや小麦粉粘土とは少し違った感触を楽しむ姿が見られた



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

普段から粘土遊びを楽しんでいる子ども、初めて小麦粉粘土に触れる際は、いつもとは違う感触にやや困惑した様子があった。何度か小麦粉粘土を繰り返し行ってからのクッキー作りを行ったことで「これ前にもやったよね」と進んで触れてみようとする姿がみられた。型抜きに真剣に取り組む児、小麦粉をめん棒で伸ばす子など、それぞれがじっくりと取り組むことが出来た。自分で作ったクッキーが焼き上がり、みんなで食べる姿は、遊びに中から食に対する意欲みたいなものを感じた。1つの素材がいろいろなものに変化することや、触れたり食したりと様々な経験を通じて、面白さを感じる大切に時間となった。